

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300065		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハーモニー中田		
所在地	郡山市中田町下枝字久保337-1		
自己評価作成日	平成25年1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会		
所在地	郡山市亀田2丁目19-14 チャレンジビル2階		
訪問調査日	平成25年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の事業所として、立地地域との関係が深くあり、利用者も職員も立地地域内出身者が多く、地域との連携がとれた行事により、交流を深められている地域の事業所となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の設立時から地域の方々に係っており、地域行事に利用者が参加したり、施設行事に、地域住民が参加したりと、交流が自然に行われている様子が見られる。
法人内の施設が各所に多数あるが、他施設での事故報告を法人内で共有したり、法人全体の研修会にできるだけ多くの職員が参加できるよう工夫されていたりと、大きい法人の利点を生かした運営がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、ミーティング時に唱和をし、理念の共有を図っている。	法人全体の理念を受けて、施設独自の3大方針と、ケア3大方針を作成し、施設内に掲示してある。毎日唱和することで理念を意識して業務をするようになったと感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	団体となっているために、町内会には加入ができていないが、町内の明るい街づくり推進員として各種地域事業への参加をしている。	夏祭り、芋煮会、新年会の餅つきなど施設行事は公民館にポスターを貼り地域住民に参加してもらい、地域の文化祭には利用者の作品を出品したり、保育所や公民館の行事には利用者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を得るための働きかけを、相談等にて実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に一回開催し、事業所状況や地域の状況の情報交換を行ったり、運営に関しての相談の機会として開催しています。	町内の運営協議会会長や区長など、地域住民の参加が多い。住民から雪道の送迎やインフルエンザ等の予防を心配してくれ、推進会議内で一緒に考える機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域行政センターと常に情報の交換等を行い、協力関係を構築できるように努めている。	近くに行政センターがあり、施設行事の案内を掲示してもらったり、行事の際にはテーブルなどを借りたりしている、また、地域の行事の案内を行政センターから知らせてもらっており、交流は頻回にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所に身体拘束防止委員会を設置し、毎月会議開催し防止と周知を図っている。	毎月1回委員会を開催し、委員会だけでは解決できない難しい場合は職員会議で全職員で話し合いをしている。言葉による拘束を特に意識し、トイレ内に注意喚起のポスターを掲示し常時見られるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて、虐待についての勉強会を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、特に成年後見制度のリーフレット等にて職員へ配布説明し、理解をする機会をつくっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結については、内容の確認していただけるように説明をした上で、すぐに締結するのではなく、内容の再確認の期間をとり締結している。改定等の説明は、内容を分かりやすく要約して文書にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、アンケート調査を実施して、その内容をもとに改善点等を検討し、運営に活かしている。	無記名のアンケートを年1回実施して、その結果を職員会議で報告している。最近は、○印だけでなく、感想や意見を記述してもらえることが多くなった。今年質問内容を若干変更し、新たな声を出してもらえるよう工夫した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、意見等を聞く機会をつくっている。	勤務体制の変更に伴い、シフトの作成方法を3例提示し、職員に話し合いで決めてもらった。少人数の「班」を作り意見が出しやすい場を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、給与の改定と働きやすい勤務状況の検討をし、25年度より実施していく準備に入っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の関係もあり、外部の研修には必要最低限での参加となっているが、常に疑問やキャリアアップのためのアドバイス等を業務のなかで学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークはつくれているが、交流の機会がなかなか持てていない。情報の提供などで、連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、本人との話し合いの場を設けて、安心して利用がいただけるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に、家族との話し合いの場を設けて、要望等を聞く機会をつくっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にケアプランの説明を行い、必要としている支援内容の確認をさせていただき、不足しているサービスがないかも確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が日常生活のなかで、受け身にならないように、本人の主体性を尊重した関係を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流を目的とした行事の企画と本人の生活の様子の報告や連絡をとりながら、一緒に支えるように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への積極的な参加により、地域での生活の継続に努めている。	以前は自宅へ出かけたつもりだったが、介護度が上がり出来なくなっている。家族や親せき等に面会に来ていただけるよう毎月手紙を出している。友人が面会に来てくれる方もいる。美容室は入居前のなじみの店に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しい関係の方向士でのテーブル設定など、工夫をしたり、職員が間に入り、話し相手となりながら孤独感がないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービスを受けるようになって、家族よりの相談があった場合には相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との面談や相談の機会をつくり、その思いや希望などを把握している。	グループミーティング(個別ケース会議)の前に、全職員が全利用者の思いを記入できるような情報シートを作成している。計画作成担当者は、個室で利用者と話をし、意向を把握するようにしている。	毎月の会議ごとに全利用者の課題や意向がまとめてありますが、個人ごとにまとめることで、前後の変化などを把握でき本人の暮らし方が見えるのではないのでしょうか
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現段階では、情報収集を行ってはいるが、経過を把握できる記録になっていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に本人の生活状況・心身状態の変化・残存能力についての把握をし共有できるように、カンファレンス時に情報の提供を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人・家族と話し合い、関係する職員とも話し合いの場を設けて作成している。	全職員が全利用者のモニタリングをし、グループミーティングで話し合いをして実施状況を確認している。プランの見直し時期には、面会時や電話で必ず家族と話し合いを持ってから作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録にて記録をし、職員間の共有情報として、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と連携を図り、柔軟な対応ができるように考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への積極的な参加により、馴染みの方々との交流を図り、慣れ親しんだ地域とのつながりがあることを感じていただけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医への受診時には情報の提供や受診介助にて適切に医療をうけることができるように支援している。	入所前のかかりつけ医の受診を、入所後も継続している。家族が受信対応をするときは、生活記録情報を渡して医師に状況を正確に伝えてもらう。また、受診後は直接医師に結果を電話で確認することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態の変化など気付いたことがあれば、看護師へ報告・連絡・相談を行って、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にあたっては、情報交換に努め適切な治療を受けられるようにしている。また、入院中・退院時は状態の確認などの情報交換を行い、病院関係者との関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、利用後に本人や家族の考え方や思いをあらかじめ聴き、事業所でできることの理解を得ながら、かかりつけ医との協力体制を構築しながら支援できるように心がけている。	介護計画の中に、看取りの計画について入れるようにしている。そのため事前に家族に今後の対応の希望を聞いている。職員は勉強会や外部の研修会に参加し、看取りについて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作や救急法の訓練と指導を消防署員より受けて身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災にて、災害発生時の優先避難施設になっているため、地域総合防災訓練の施設として訓練が行われている。	年に2回、消防署立ち合いで利用者も全員参加の避難訓練を実施している。前回は夜間想定訓練も行った。AEDの操作訓練、消火栓操法大会へも参加した。震災の際は地域から食料等の協力も十分にあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に失礼のないような態度と言葉使いにより、人格の尊重とプライバシーを損ねないように配慮している。	法人全体で言葉使いと接遇、マナーの向上に力を入れており、法人の研修会に全員が必ず参加できるようにしている。仕事の原点マナーの研修ではどうしたら良いサービスができるかの研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表わしやすいように傾聴に努め、自己決定がしやすいように時間をかけて決定してもらうように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大雑把な流れはあるが、一人ひとりにあった生活とその日の状態に合わせた生活を送れるように臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入りの服を持ち込んでもらい、着替えの際にその中から選んでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できることを一緒に手伝ってもらい、食事を楽しむことができるようにしている。	法人内の調理コンテストで賞をとった。ごはん茶碗と汁椀は、個人ごとに自分の使っていたものを持ってきてもらっている。おやつはお好み焼きやたこ焼きなど目の前で作って食べられるようなものを多くしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取の状態や量と水分の摂取量を記録して、状態の把握に努めています。また、食器は自宅で使い慣れている物を持ち込んでもらい、食べやすい環境整備にも配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に本人ができる範囲内での口腔ケアを実践してもらい、職員が口腔内のチェックをしている。また、定期的に希望者には訪問歯科医による口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、残存能力を活かした排泄の方法を考慮し、自立した排泄を支援している。	1か月の排泄パターンを専用のシートに記入して排泄委員会で排泄パターンを読み取り、トイレでの排泄ができるようにしている。職員がさりげなく声掛け誘導してトイレに行く姿が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を記録し、排便のコントロールをするために足浴などで働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の一応の設定はあるが、本人の希望により、大浴・個浴の選択と時間の選択が出来るように配慮している。	大きい浴室と、個浴の2種類があり、希望の浴室を選べる。なかなか入浴してくれない方には、男性職員が誘ったり、日中から入浴の話をして「夜なら」という言葉を引出し、夜間入ってもらえた方もいた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により、居室や空きベッドなどにおいて、急速をとれるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容とその効果と副作用の説明を受け、間違いのない服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味や関心を示すことの把握と趣味や特技を知ったうえで、レクリエーション活動のプログラムを検討し、張り合いを感じてもらえるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を季節に応じて、本人の要望を聞きながら決定し、家族の了解をえたうえで出かけ先の地域の方々の理解と協力を得ながら実施している。	周辺の観光地にドライブに行ったり、法人内の他の施設に出かけ食事を一緒にしたりしている。誕生日には買い物に出かける。天気のいい日は敷地内を散歩したり、テラスでお茶を飲んだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立地条件が山間地域のために、買物などを楽しめる場所がないために、定期的に訪問販売にて買物をする機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をしたい場合は電話をかけることができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本家屋の特徴を取り入れた住み慣れたつくりになっています。また、季節感が感じ取れるように、窓越しに見える庭には季節の花を植えるようにしている。	居室やトイレの扉を和風の襖のような感じを取り入れるなど全体的に日本風の住まいの雰囲気を取り入れている。入浴中の視線に合わせた高さの台を作り季節の花を飾っている。	入浴を楽しんでいただけるように、脱衣室の雰囲気工夫されると良いかと思われます。カーテンなどの仕切りで脱衣のコーナーを作るだけでも感じが変わるのではないのでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと椅子の外にソファが用意され、自分の好きなように過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や飾りを自宅より持ち込んで、安心できる空間づくりをしている。	居室の入り口に写真入りの表札があり、自室がわかりやすく、自分の部屋であることの工夫がされている。家で使っていた布団や枕を使い、自分の家の匂いを持ち込んでもらうようにしている。	使っていた家具などを持ち込んでいただけよう家族に声掛けをしているとのことですので、ぜひ多くのものを持ち込んでいただき使い慣れ過ぎやすい部屋づくりを進めてください。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住み慣れた住環境に近い工夫と手すり等の設置と使いやすい高さの洗面台など自立して使えるよう工夫している。		